

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 丹沢

Children's World Water Forum follow up in Tanzawa



あなたの活動を全国へ！

世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢 実行委員会

事務局：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
〒103-0001東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F
TEL.03-5847-8307 FAX.03-5847-8314

100 PRINTED WITH
SOY INK
100%の再生紙と大豆油インキを使用しています

2006 11/23 (木祝) ~ 11/25 (土)



◆世界子ども水フォーラム
(京都/2003.3)



◆世界子ども水フォーラム・
フォローアップ in 広島(2003.10)



◆世界子ども水フォーラム・
フォローアップ in 宮城(2004.8)



◆世界子ども水フォーラム・
フォローアップ in 東京(2005.9)



◆第2回世界子ども水フォーラム
(メキシコ/2006.3)



開催趣旨

私たちの身近にある「水」に関する環境問題は、日本ばかりではなく地球規模で考えなければならない問題となっております。

こうした世界の水問題について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として、平成18年3月に「第4回世界水フォーラム」がメキシコにおいて開催されました。この中で主要な分科会のひとつとして「第2回世界子ども水フォーラム」が開催され、日本を含む29カ国107名(日本から7名)の11歳から18歳までの子どもたちが参加しました。

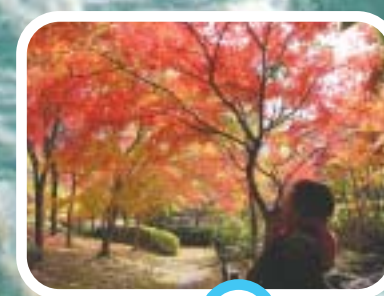
今回のフォーラムでは、「世界の水問題の解決は地域活動から」をテーマに、世界の子どもたち自身の地域での活動(水教育への取り組み、衛生問題への取り組み、環境保護への取り組み)が発表されました。また、「第1回世界子ども水フォーラム(京都・滋賀)」において作成された「子ども水宣言」をより具体的に行うための行動宣言を取りまとめるにあたり世界の子どもたちで積極的な意見交換が行われました。

その「世界子ども水フォーラム」を引き継ぎ、水問題の解決に向け、日本の子どもたちが自らできることを考え、子どもたちのネットワークを広めていくことを目的として、「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」が広島、宮城、東京で開催されました。

そして、今までの経験と成果を引き継ぎ、子どもたち自身の活動の更なる展開を期待して、『世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 丹沢』を開催いたしました。

目次

開催趣旨	3
開催目的	4
開催概要	4
大会プログラム	5
開会式	6
オリエンテーション	7
アイスブレイク	7
第2回世界子ども水フォーラム (メキシコ大会)参加報告	8
夕食兼交流会	9
分科会1	9
体験活動1(三保ダム視察)	10
体験活動2(玄倉川水難事故の 概要説明、現地視察)	11
分科会の活動、発表	
第1分科会	12
第2分科会	14
第3分科会	16
第4分科会	18
第5分科会	20
第6分科会	22
全体発表会	24
全体講評	25
閉会挨拶	25
閉会宣言	26
参加者の感想	27
実行委員・事務局スタッフ	27



大会プログラム

開催目的

「第2回世界子ども水フォーラム」をはじめ、これまでの活動で得た経験と成果を共有し、今後にむけてできることを議論することによって仲間とのネットワークを広げていくことを目的として、世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢が開催されました。

五つの目的

1. 「第2回世界子ども水フォーラム」で得た経験と成果を共有する。
2. 世界子ども水フォーラム(京都)における「子ども水宣言」及びフォローアップ(広島、宮城、東京)における経験及び成果を引き継ぐ。
3. 水に関する活動を広げていくために子どもたちができることを議論する。
4. フォローアップの開催によって、子どもたちの水に関するネットワークを構築する。(同じ仲間がいることを知る。)
5. 次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。

開催概要

- 1.開催日程：平成18年11月23日(木・祝)～25日(土) 2泊3日
- 2.開催場所：神奈川県足柄上郡山北町 丹沢湖ロッヂ
- 3.主催：世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢 実行委員会
- 4.共催：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
- 5.後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会
- 6.協力：神奈川県、神奈川県酒匂川水系ダム管理事務所、山北町、足柄消防組合消防本部



開会式での記念撮影

11/23(木・祝)

12:00 受付開始(小田原駅)

13:15 小田原駅出発(バスにて移動)

14:45 開会式

- ・開会宣言・開会挨拶・歓迎挨拶
- ・開催主旨説明・記念撮影

15:30 オリエンテーション

- ・スケジュール説明
- ・本大会の注意事項
- ・館内利用の注意事項

16:00 アイスブレイク

- ・全スタッフ紹介・名刺交換会

16:30 世界子ども水フォーラムのあゆみ

- ・メキシコ大会参加報告など

17:30 夕食(いろいろ)

- ・バーベキュー

19:30 分科会1

- ・自己紹介レポート発表
- ・子ども宣言文作成委員選出
- ・各グループでのワークショップ(以下WS)、子ども宣言文作成委員WS

21:30 入浴・就寝

11/24(金)

7:00 起床

7:30 朝食

8:30 体験活動概要説明

- ・本日のスケジュール確認

8:45 体験活動1(2班に分かれて)

- ・三保ダム視察(1班:第1・3・5分科会)
- ・(2班:第2・4・6分科会)

12:00 昼食

12:50 体験活動2

- ・玄倉川水難事故の概要説明
- ・玄倉川現地視察

14:30 分科会2

- ・体験活動の振り返り
- ・各グループでのWS
- ・各グループ発表準備

18:00 夕食

- ・各グループで食事

19:00 分科会3

- ・各グループでのWS
- ・各グループ発表準備
- ・各グループ成果とりまとめ子ども宣言文作成委員WS

21:30 入浴・就寝

11/25(土)

7:00 起床

7:30 朝食

8:30 ビジターセンターへ出発

8:45 全体発表(ビジターセンター)

- ・各グループ発表(発表8分、質疑7分、準備・移動2分)
- ・(6グループ各15分程度)

11:00 閉会式(ビジターセンター)

- ・講評・閉会宣言(子ども水宣言)
- ・閉会挨拶・記念撮影

11:45 後片付け・出発準備

12:00 出発(バスにて移動)

- ・車内にて弁当

13:30 小田原駅解散

内容充実の3日間!





瀬戸 孝夫町長の歓迎挨拶 (正面左より：宮尾 博一実行委員／内山 恵子実行委員／藤吉 洋一郎実行委員長／瀬戸 孝夫実行委員)

第2回世界子ども水フォーラム(メキシコ大会)の参加報告あり、体験活動あり、分科会ありの37名が参加した盛りだくさんの3日間でした。はじめて出会う人もそうではない人も、共に行動し、語りあい、少しずつ本当の仲間になりながら、自分の役割をしっかりと果たして充実感、達成感、そして感動を共有しました。

開会式

ふくむ3日間への
意気込みと期待

ちょっぴり緊張ムードの中、開会式が始まりました。いよいよ3日間の世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢のスタートです。まずは3日間の舞台となる神奈川県出身の灰塚 果苗さんの開会宣言「自然があふれ美しいことが自慢の神奈川でフォローアップができることをうれしく思います。この3日間で、互いにいろいろなものを得られればうれしいです」という言葉に賛同の拍手が響きます。

藤吉 洋一郎実行委員長より「世界子ども水フォーラム」のこれまでの流れについて説明があり「第2回



子ども参加者代表
灰塚さんの開会宣言



緊張のまなざしで挑んだ開会式

藤吉 洋一郎実行委員長
による開会挨拶



ファシリテーターによる
オリエンテーション



ファシリテーターの話に
真剣に聞き入る

オリエンテーション

意義ある
フォローアップに向けて

オリエンテーションでは、実行委員の紹介の後、あらためて開催趣旨の説明と目的などがかみくだいて説明されました。「この3日間で、いろいろなことを話し合ひましょう」という言葉にオリエンテーションの内容が集約されました。そして記念撮影へ。みんな少しずつ緊張がほぐれ、会話も弾み出したおかげで、笑顔の写真が撮れました。



みんなといろいろ
話し合った3日間でした。

アイスブレイク

少しずつ
打ち解けムードが広がって

それぞれがつくってきた名刺を交換しながら自己紹介、そして他の人のことを紹介する他己紹介へ。互いのことを知りながら、自分をアピールする練習、他の人へ必要なことを伝える練習をしていきます。同じ想いをもつ参加者同士だから、想像以上に積極的に名刺交換をし、スムーズになじんでいけたようです。また、「肉のおいしい食べ方」というテーマでブレインストーミングをすると、口々にアイデアが飛び出しました。



アイスブレイク：
名刺交換会の様子



各自手作りの名刺で自己紹介



アイスブレイク：ブレイン
ストーミングの様子



車座になって話し合う参加者たち

第2回世界子ども水フォーラム (メキシコ大会)参加報告

世界から持ち帰られた希望と課題

第2回世界子ども水フォーラム(以下メキシコ大会)の派遣候補者による参加報告会は、興味津々のみんなの真剣な視線の中、熱意あふれる雰囲気ですんでいきます。

最初に、世界子ども水フォーラムをはじめとする活動の、これまでの積み重ねが簡単に説明されました。その中には、フォローアップが開催されるようになった経緯の説明もありました。「世界子ども水フォーラムの参加を経て、日本と各国では、水問題の知識や考えが大きく違うこと。日本の現状や考え、意識、活動を伝えること、そして、世界の現状や意識を知ることのできた知識やネットワークを次へつないでいくこと。」というフォローアップの経緯や目的がより明確になりました。

2005年の世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京で選抜された派遣候補者メンバーは、メキシコ大会に向けて勉強会を重ね、自分たちの想いや活動、日本の水環境の現状などを伝えるための方法を模索していきました。勉強会では、伝えたいことがうまく伝えられないもどかしさに涙したり、英語の練習に大変な苦労をしました。

そんな努力と苦労、そして希望をつないで迎えたメキシコ大会では参加者は4つの班にわかれ、「水の歴史・文化」「水のネットワーク」「水害」「自然環境」という4つのテーマで発表を実施しました。参加報告会では、メキシコ大会の資料を使用して、報告を行いました。

それぞれ自分たちがテーマに合わせて学習・調査してきたことを、自分自身が地域で行っている活動と関連

づけながら発表し、形式的ではなく、自分自身の体験と想いにもとづいた、本質的な発表ができた手応えを感じたようです。

その結果は、参加国55カ国の中でベスト5という評価に表れました。「子どもたち自身が熱意をもって活動している」「日本だけでなく他の国でもできる活動を続けている」というのが、その評価の理由でした。世界中の参加者から

「自分たちの地域でも活動したいので、詳しい内容を教えてほしい」などの声が挙がったそうです。今回、報告を受けている参加者も、メキシコ大会の熱気をそのまま感じ取っているかのように、目を輝かせて聞き入っていました。

最後に、メキシコ大会に参加して「日本には多くの水の活動がある」「みんな水が好きなんだ」「もっと水が好きになった」ということに気づき、そして再認識した課題、「参加者同志で情報を共有して知識を増やす」「友達をつくって情報共有のためのネットワークをつくる」「これから自分たちでできることを見つける」などを発表し、参加報告が終了しました。



第2回世界子ども水フォーラム(メキシコ大会)派遣者による参加報告の様子



世界子ども水フォーラムのあゆみの説明



分科会ごとに楽しくわきあいあいと



野外でみんなで食べるとおいしいね



分科会1の様子(第1分科会)



分科会1の様子(第3分科会)



分科会1の様子(第5分科会)



子ども宣言文作成委員WS(ワークショップ)の様子

夕食(BBQ)

お腹も心も満たされた
楽しいバーベキュー

アイスブレイクでなごんだ気持ちをさらに和気あいあいムードにしたのが、みんなで肉や野菜を焼ながら食べるバーベキュー。これまでちょっと緊張が残っていた参加者も、ここで一気に笑顔に。



緊張がとれて、
みんな積極的に意見を
述べるようになりました。

分科会 1

順調に進む
それぞれの話し合い

いよいよ6つの分科会に分かれての話し合いが始まりました。ファシリテーターやアドバイザーのさりげない導きを受け、それぞれのあだ名や、分科会でのルールを決めたり、閉会式で「子ども水宣言」をする宣言委員を選んだり、子どもたちが主体となって話し合いが進んでいきます。役割を決めたり、自分の意見を述べる中で、みんなの個性も少しずつ発揮されていきます。

分科会のテーマ

第1分科会	水問題などに関して私自らがやっている活動
第2分科会	水問題などに関して学校や所属団体で行っている活動①
第3分科会	水問題などに関して学校や所属団体で行っている活動②
第4分科会	水問題などに関して学校や所属団体で行っている活動③
第5分科会	自分たちが将来的に取り組むべきこと
第6分科会	子どもたちのネットワークを広げるための活動

体験活動1

三保ダム視察

※神奈川県酒匂川水系ダム管理事務所 職員の方々による説明



監査廊からの三保ダム内部見学、天端からの本体見学に興味深々の参加者たち

ダムの秘密に興味津々

2班に分かれて三保ダムを視察しました。普段は入れないダムのさまざまな場所を見学したり、ダムの仕組みや役割を知る、盛りだくさんの内容でした。参加者はスケールの大きなダムの詳しい構造や、なくてはならない大切さなどを自分の目で見、耳で聞き、真剣な

表情で目を輝かせていました。考え込んだり、興奮して感想を話し合う姿も見られました。

子どもたちにはもちろん、スタッフにとってもとても勉強になった視察でした。

参加者一覧

NO.	都道府県	名前	性別	学校名	学年	分科会	NO.	都道府県	名前	性別	学校名	学年	分科会
1	青森県	三和 優大	男	青森県立五所川原農林高等学校	高1	第6分科会	11	神奈川県	鋤持 飛翔	男	私立横浜高等学校	高2	第6分科会
2	青森県	中井 怜	男	青森県立五所川原農林高等学校	高1	第5分科会	12	石川県	谷口 央	男	石川県立金沢泉丘高等学校	高2	第4分科会
3	宮城県	中村 翔也	女	宮城県第二女子高等学校	高1	第5分科会	13	静岡県	市川美智華	女	静岡県立静岡西高等学校	高2	第6分科会
4	福島県	佐藤 大地	男	私立日本大学東北高等学校	高2	第3分科会	14	静岡県	小川さやか	女	伊豆市立修善寺中学校	中1	第4分科会
5	栃木県	薄久保大造	男	栃木県立宇都宮工業高等学校	高2	第2分科会	15	静岡県	寺尾 純加	女	静岡県立伊東高校城ヶ崎分校	高2	第1分科会
6	栃木県	上野 卓哉	男	栃木県立宇都宮工業高等学校	高2	第3分科会	16	静岡県	夏目 梨帆	女	伊豆市立修善寺中学校	中1	第5分科会
7	千葉県	野池 芽衣	女	千葉県立国府台高等学校	高2	第3分科会	17	静岡県	古藤田舞乃	女	伊豆市立修善寺中学校	中1	第6分科会
8	神奈川県	灰塚 果苗	女	神奈川県立百合丘高等学校	高3	第2分科会	18	滋賀県	増田 彩希	女	日野町立日野中学校	中1	第2分科会
9	神奈川県	成島みゆき	女	神奈川県立港南台高等学校	高3	第4分科会	19	滋賀県	中嶋 優	男	日野町立日野中学校	中2	第3分科会
10	神奈川県	目黒 謙一	男	私立麻布高等学校	高2	第1分科会	20	京都府	上村真由佳	女	京都市立神川中学校	中3	第1分科会

体験活動2

玄倉川水難事故の概要説明、現地視察

※足柄消防組合消防本部 米山消防指令長による説明



玄倉川水難事故の概要説明と現地視察に考え深げな参加者たち

水の恐ろしさを実感

フォローアップの会場付近を流れる玄倉川で実際に起った水難事故の話は、子どもたちに大きな印象を残したようです。緊張の1日目を終え、昼食の後にもかかわらず、みんな真剣に概要説明に聞き入っていました。

その後、玄倉川を視察し、普段は楽しい水遊びの場

となる川が、自然の猛威の前で危険な場所になることを体感しました。水に親しむためには、安全に配慮することが欠かせないこと、またそれを伝えていく必要性などをそれぞれが考えた体験活動でした。

NO.	都道府県	名前	性別	学校名	学年	分科会	NO.	都道府県	名前	性別	学校名	学年	分科会
21	岡山県	松本 和樹	男	岡山県立岡山工業高等学校	高3	第5分科会	31	福岡県	曾根 裕子	女	直方市立直方第三中学校	中1	第1分科会
22	山口県	兼行 梢	女	私立高川学園高等学校	高2	第4分科会	32	長崎県	林田 果歩	女	私立長崎日本大学高等学校	高2	第1分科会
23	愛媛県	金子 愛	女	愛媛県立伊予農業高等学校	高1	第3分科会	33	熊本県	村中 志帆	女	熊本県立熊本北高等学校	高1	第4分科会
24	愛媛県	西川 有紀	女	愛媛県立伊予農業高等学校	高1	第2分科会	34	宮崎県	飛弾ゆり愛	女	宮崎県立延岡星雲高等学校	高1	第2分科会
25	愛媛県	池田 京子	女	愛媛県立大洲農業高等学校	高3	第5分科会	35	宮崎県	甲斐 由貴	女	宮崎県立延岡商業高等学校	高3	第3分科会
26	愛媛県	宮崎 愛美	女	愛媛県立大洲農業高等学校	高3	第6分科会	36	鹿児島県	橋口 潤哉	男	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	高1	第1分科会
27	福岡県	名嶋 優	女	福智町立赤池中学校	中2	第6分科会	37	沖縄県	小林孝太郎	男	沖縄県立宮古農林高等学校	高2	第2分科会
28	福岡県	瀬戸 溪太	男	福智町立赤池中学校	中2	第5分科会							
29	福岡県	中尾 恵子	女	福智町立方城中学校	中1	第3分科会							
30	福岡県	中尾 浩子	女	福岡県立嘉穂高等学校	高3	第6分科会							

(参加者37名)

あきらめずに続けることの意味を力強く

テーマ

水問題などに関して私自らがやっている活動

発表の概要

自分の一番伝えたいことを考え、互いにアドバイスしながら、1年後の自分に手紙を出すという形式で話し合ったことをまとめ、発表しました。

発表の内容

それぞれが自分のこれまでの活動、その想いや目的を振り返り、未来の自分に託して書いた1年後の自分への手紙を順番に発表しました。「個人でないとできないことがある」「自分の想いを突き進む」「子どもが主体となってやっていく」「自由に考え、自由に行動する」そんな意見をもとにアピールポイントを設定。同時に「仲間を増やしていく」「活動が広まらない」などの問題点が挙げられました。

1年後の自分への手紙は、お年寄りに話を聞いたり、川のゴミ拾い、仲間をつくることなど、現在行っている活動を振り返り、来年の春、夏、そして次のフォローアップに、自分がどんなことをするのかを文章化。手紙という形式をとることで、相手に伝えるために明確に言葉で語ることができました。そして理想の自分を思い描くことができました。



1年後の自分への決意を发表

まとめ

みんなで話し合った結果として「自分の考えを文字にする。それを市報などで発表する」「地域の活動をしている人を捜し連携をとる」「上を集めるよりも下の子を育てる」などを、これからの具体的な行動指針としていくこと。そして「自分の信念と想いを信じること」「地元の川をナンバー1の川にする」「木を植え続ける」「水害の恐ろしさを伝えていく」「自分で考え行動する」「川を楽しむ」「コツコツやっていけばなんでもできる」などの名言が集まり「続けることが大事、可能性は無限大」という言葉に集約されました。

ファシリテーターの感想



ファシリテーター
宮崎 由美子

去年の参加で自分のふがいなさに気づき、今年1年、ワークショップを中心に頑張ってきた。参加者はもちろん、スタッフのみなさんものすごく頑張ってくれて、1年後の自分にいい手紙を書くことができ感動しています。来年私は就職して仕事を始めますが、この経験を忘れず、地域から活動の輪を広げていきたいです。最近「水はなんでも知っている」という本を読みました。水にいい言葉をかけると、水はともきれいな結晶をつくる。でも悪い言葉をかけると、水の結晶はバラバラに弾けてしまう。みなさんのきれいな心、素直さ、一生懸命さを、水は受け止めているいろいろなことを返してくれと思います。自分の信念と想いを信じて、来年もまたここで会いましょう。



運営スタッフ
坂本 貴啓

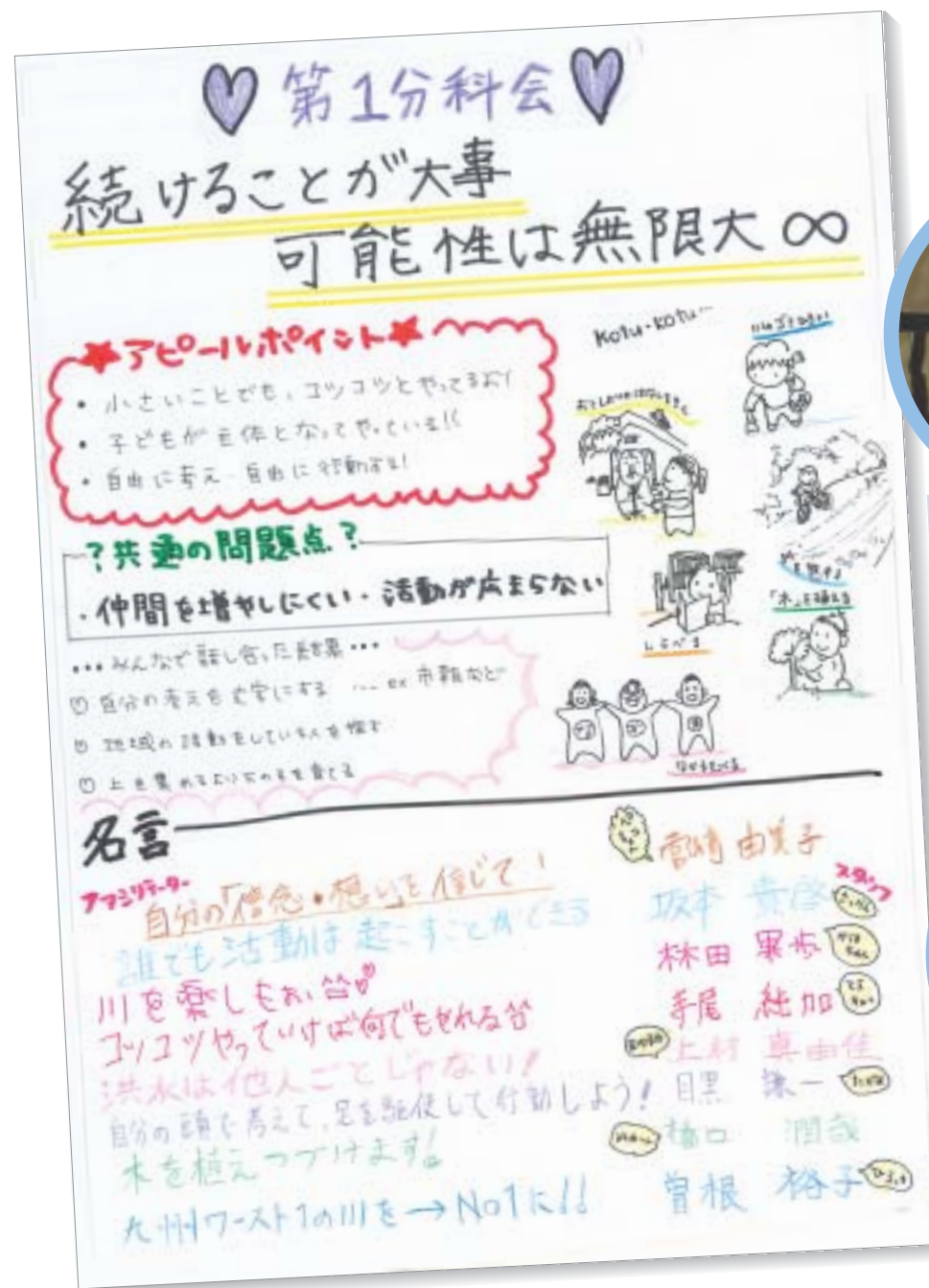
アドバイザー
国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課 主任
牧野 国博



1年後の自分へ手紙を書く



ファシリテーターの導きで考えを深める



かほちゃん
(林田 果歩)
長崎県
高2



ひろっち
(曾根 裕子)
福岡県
中1



たがめ
(目黒 謙一)
神奈川県
高2



まゆまゆ
(上村 真由佳)
京都府
中3



てらちゃん
(寺尾 純加)
静岡県
高2



みや〜ん
(橋口 潤哉)
鹿児島県
高1

心をつかみ想いを伝えるための工夫

テーマ

水問題などに関して学校や所属団体で行っている活動①

発表の概要

「現在自分が行っている活動をどのようにパワーアップさせていくか」それを店舗のリニューアルになぞらえて、記者発表という形式で発表しました。

発表の内容

第2分科会というグループを、ファシリテーターを中心とする池田商店街にたとえ、商店街をもっとよくするためのリニューアル計画を話し合い、まとめたことを発表しました。池田商店街リニューアル記者発表と題された発表に、みんなから笑い声があがることもしばしば。楽しい雰囲気での発表となりました。

幼稚園児・小学生の教育や、水を大切にするキャンプ、海岸の清掃活動、川の浄化活動や紙芝居、川とふれあ

いながらのリサイクルなど、現在でも多彩な活動を実施しているメンバーたちが、さらに化学系の分野を取り入れたり、清掃活動の回数を増やす、ゴミ問題を考える、地域住民と協力するなど、活動の幅を広げ、内容を深める方法を発表。その決意を語りました。

貸店舗募集中という形で、より多くの人の参加やネットワークづくりを呼びかけるなど、ユニークな発表の仕方、その工夫も好評でした。

まとめ

商店街のポイントを貯めた特典という形で、活動の先にめざすものをまとめました。「次の世代へ伝える」「水辺と人との距離を縮める」「水と人との調和」「日本中の水辺をきれいに安心して遊べるようにする」など、水を愛し、水に親しむ未来を見据えた意見が出されました。さらに、いっしょに活動していく仲間を増やす大切さ、ネットワークの重要性などにも触れたまとめでした。

ファシリテーターの感想

ファシリテーター
池田 幸子



楽しいメンバーと、すごくいい雰囲気の分科会ができました。

みんなの発表を聞いて感じたのは、こういう場に集まって、互いの活動を発表しあうことが、みんなの次のエネルギーや、新しいきっかけづくりになっているということ。参加する前と帰る時には、みんな違う。みんな成長しているのではないだろうか。



運営スタッフ
武田 行剛



運営スタッフ
佐藤 裕基

アドバイザー
国土交通省 関東地方整備局
河川部 河川環境課 課長補佐
徳道 修二



僕たちがめざすもの



私たちが活動していくこと



それぞれ各地域ではどんな活動をしていますか？



全体発表用の池田商店街の地図を描く



ゆき
(西川 有紀)
愛媛県 高1



タロウ
(小林 孝太郎)
沖縄県 高2



さきボン
(増田 彩希)
滋賀県 中1



ゆりえ
(飛弾 ゆり愛)
宮崎県 高1



ダイジー
(薄久保 大造)
栃木県 高2



かなえ
(灰塚 果苗)
神奈川県 高3

興味の種をまいちゃおう!!

テーマ

水問題などに関して学校や所属団体で行っている活動②

発表の概要

それぞれがどんなきっかけで、なんのために活動しているのかを簡単にまとめ、これからどのように活動していきたいかを詳しく話し合っ発表しました。

発表の内容

メンバー紹介をしながらスムーズに発表に入りました。活動のきっかけは、先生やお姉さんから勧められたり、物や本、入試などさまざま。活動の目的も「地球の役に立ちたい」「川に関心をもっている子と友達になりたい」「川をきれいにしたい」「たくさんの人に川に興味をもってもらいたい」など、それぞれのストレートな想いを形にしていきたいという内容でした。発表の中心は、これからどうしていけばいいかとい

うこと。それを「興味の種をまいちゃおう!!」という言葉で表現し、花のイラストの中に「こんなことをしていきたい」という意見を書き込んで発表しました。意見は「子ども交流会をしよう」「大人の意識高めよう」「交流と情報の場がほしい」「きっかけづくりの機会がほしい」「自分たちできっかけをつくろう」の5点にまとめました。

まとめ

私たちは、この水フォーラムに参加して、全国のさまざまな活動について知りました。一人ひとりきっかけは違っても、みんな自分たちの活動が楽しくて大好きです。これから私たちは、この活動を通して学んだたくさんの種を、地元に帰って多くの人の心に植えたいです。具体的には、自分たちでイベントや宣伝活動などをどんどん起こしていき、全国のみなさんに自分たちから広めていきたいです。心にまいた種を枯らしてしまうのか、水を与えて芽を育てるかは、私たち自分次第です。

ファシリテーターの感想

ファシリテーター
小堀 進



長いような短いような3日間で、いい活動がまとまったと思います。私自身いろいろなネットワークに参加し、若い人たちと接していますが、今回は自分のほうがみなさんに元気をもらいました。やる気満々のみなさんは、地域や学校では変わり者かもしれないけれど、こうやって集まれば元気の塊になります。それを蓄えて地元に帰って種をまきましょう。



アドバイザー
国土交通省 関東地方整備局
京浜河川事務所 河川環境課長
齋田 紀行

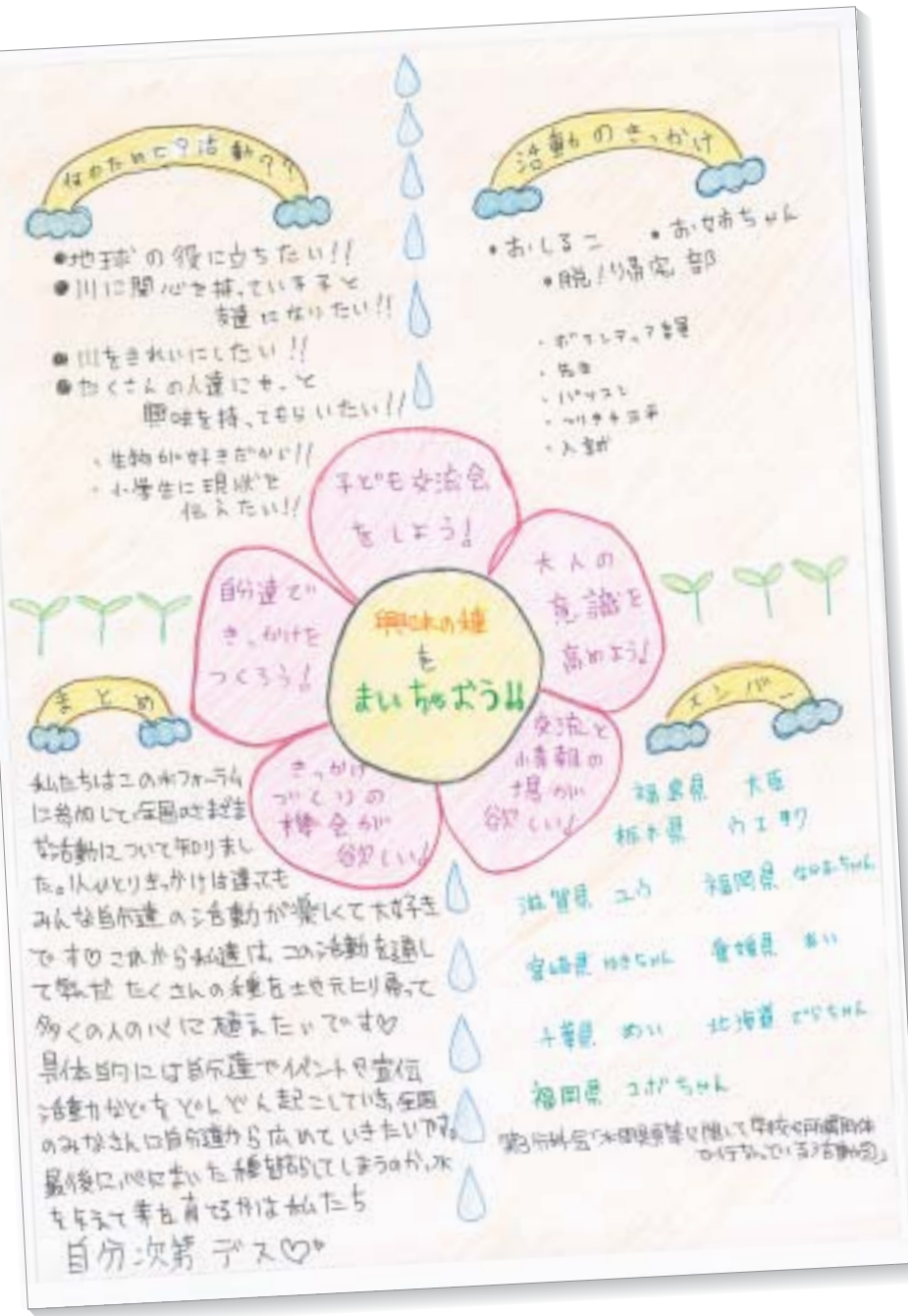
運営スタッフ
小野寺 希



これから多くの人たちに参加してもらいたい



水に関する活動を始めたきっかけは?



自分たちの思いを伝える



仲間の活動内容を聞く



大臣
(佐藤 大地)
福島県 高2



ゆきちゃん
(甲斐 由貴)
宮崎県 高3



あい
(金子 愛)
愛媛県 高1



ユウ
(中嶋 優)
滋賀県 中2



ウエタク
(上野 卓哉)
栃木県 高2



めい
(野池 芽衣)
千葉県 高2



なかおちゃん
(中尾 恵子)
福岡県 中1

熱い心が活動の輪を広げていく原動力

テーマ

水問題などに関して学校や所属団体で行っている活動③

発表の概要

それぞれが地域で行っている活動を簡潔にまとめ、その内容や目的、今後の目標などを順番に発表。それを5人の熱いメッセージとしました。

発表の内容

水の災害について調べ、その恐ろしさや防ぐ方法などを啓発する活動、水辺の生き物の保護活動、ピオープづくり、工場排水の調査、リバースクールなど、メンバーそれぞれの活動や活動をはじめたきっかけなどを順番に発表しました。実際に工場の排水をペットボトルに入れて持ってきたり、イラストを使って活動をまとめるなど、見ている人に活動の実態がイメージできるよう工夫しました。

さらに、活動を通して自分が考えたこと、みんなに覚えてもらいたいこともまとめました。「水のムダづかいをなくそう」「活動をつなげていき、それを通して多くの人に興味をもってもらいたい」「1人でできることには限りがある。多くの人が必要」「身近な川を、本当の故郷の川にしましょう」など、力強く、わかりやすく伝えられた発表でした。質疑応答を通して、学校の先生に理解を求めたときの体験談なども語られました。

まとめ

発表のための話し合いの中で、活動を続け、発展させていくために大切なことを再認識。それを「仲間づくり～NETWORK」「地域活動～LOCAL」「子どもたち～CHILDREN」「広める～SHARE」4つの言葉に集約させました。周囲の大人の無理解という現実もある中で、自分たちができる形を手探りしながら活動していくことの大切さを、それが自分自身の体験を通して自分の言葉で伝えました。

ファシリテーターの感想

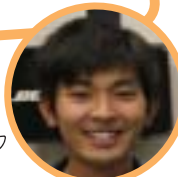


ファシリテーター 三浦 初美

愉快でほんわかムードの分科会でした。自分たちの活動の内容を見つめ、次のアクションまで話し合ったけど、発表に盛り込めなかったのは、私のがんびりしすぎたからかもしれません。でも、みんなに本当に励まされました。たくさんの人とつながりができていくと、そういう月日を重ねて、OBやスタッフの力も集まり、思いも寄らない発表会になります。参加者が前に進むと、いろいろなことが進んでいく。大人はそれをじゃましないように、活動を見守り応援していきたいと思います。

アドバイザー
神奈川県 県土整備部
河川課 技師
嶋村 健一郎

運営スタッフ
横澤 樹一郎



なる
(成島 みゆき)
神奈川県
高3



ハネオ
(谷口 央)
石川県
高2



さやか
(小川 さやか)
静岡県
中1



こーちゃん
(兼行 梢)
山口県
高2



しーちゃん
(村中 志帆)
熊本県
高1



必要なのは「やる気」



みんなにも考えてほしいこと



水への思いは一緒だね



自分の熱いメッセージをまとめる



テーマについて考え、意見を持ち寄る

みんなの力の相乗効果を信じて

テーマ

自分たちが将来的に取り組むべきこと

発表の概要

自分の活動を通して考えたこと、これからしたいこと、未来につながる希望をまとめ、その中からうまれた大きな力のもとになる人々のつながりや支えあいを発表しました。

発表の内容

「活動を通じてわかったことは、生の声、生の体験が一番響くということ」「水を大切に使っていればそれでいいと思っていたけれど、みんなにもわかりやすく伝えていければもっといい」「地元にはゴミが海岸にあることに驚き、そこからゴミ拾いを開始。今後も地元の人と共有して活動を続けていきたい」など、自分の体験や想いを順番に発表しました。「水フォーラムに参加して、以前よりも水を大切にしたい気持ちが大きくなった」など、自分の活動や歩みを振り返りながら、今後へつなげていく方法も考えました。

学校に協力を仰ぐにはどうしたらいいかなど、質問への答えについても、自分たちの体験をもとに、自分たちで考えながら答えることができました。

さらに、発表のための話し合いを通して「みんな互いに必要とされている」という一番大切なことを再認識しました。

まとめ

活動の流れを「自分のとりくみ」「身近なとりくみ」「みんなのとりくみ」と広げていくことの大切さを語りあいました。「自分からみんなを巻き込んでいく」「大きな力をつくるには、支えあう力が必要」「ひとりひとりが原動力になる」などの意識から協力の輪が広がっていき、やがて大きな力になること。そのためには「地域から考える」「学校をまきこむ」「公園に人を呼ぶ」「世界の子もたちとともに考える」という身近なことから世界を視野に入れたことまで、すべてがつながっていく、だからすべてが大切という形でまとめました。

ファシリテーターの感想



ファシリテーター
高田 拓朗

「今ここで発言していること」。それがみんなにとって一番大切なことだと思います。自分のこと、自分の活動をアピールする。自分の中の疑問も、この会場で情報交換することによって、解決のヒントにする。

そうすることがリンクしていきます。みんなの熱意が伝わり、触発されてモチベーションがあがり、自分も活動を広めて他の人を巻き込んでいこうと思いました。ここで得られた成果に、より広がりをもたせていこう。子どもたちの目の輝きが自分の力になり、たくさんのことを学びました。本当にありがとう。

アドバイザー
国土交通省 河川局
河川環境課 課長補佐
高橋 政則

運営スタッフ
佐々木 梨乃

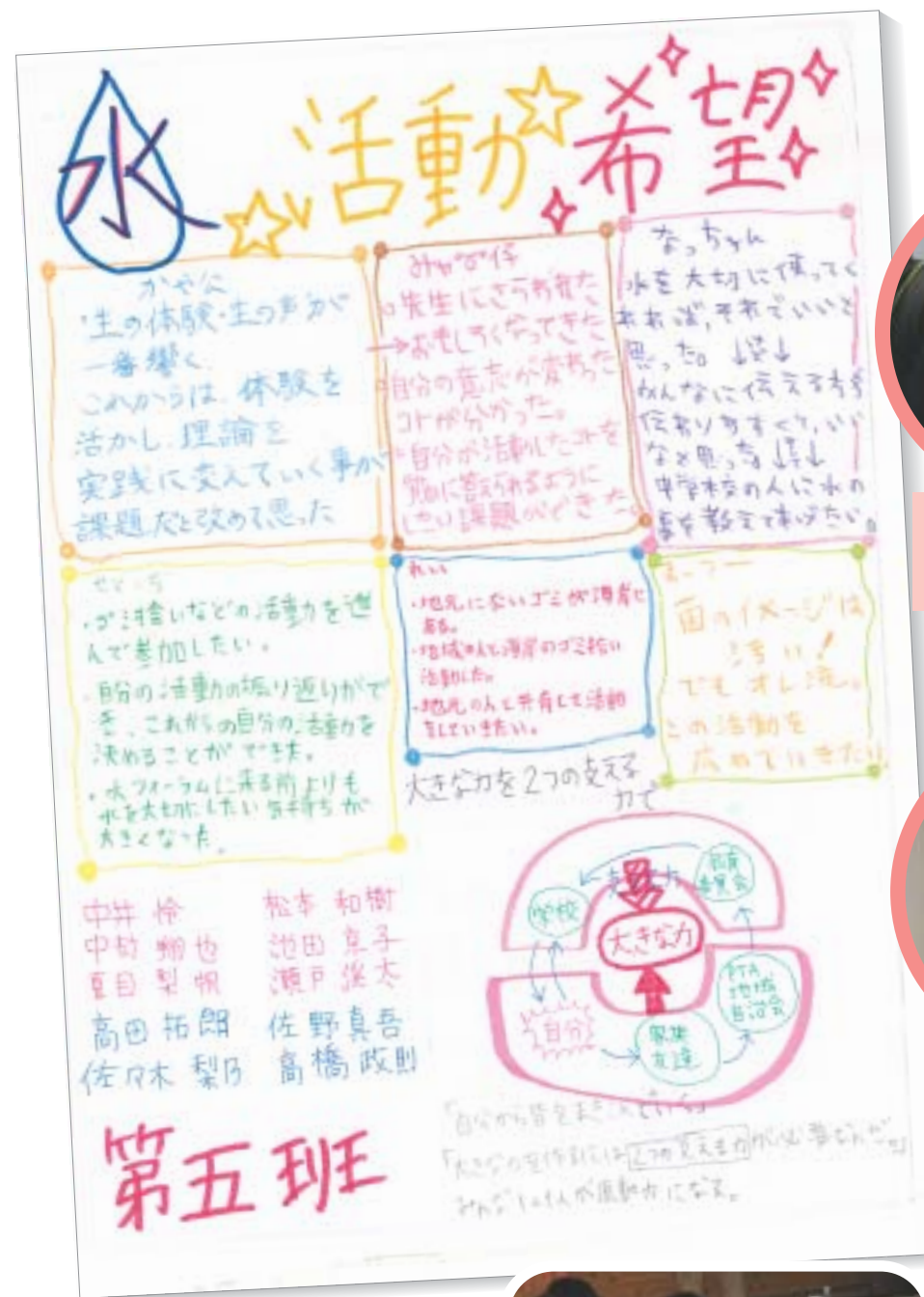
運営スタッフ
佐野 真吾



自分たちの体験談も含め発表



自分からみんなを巻き込んでいこう



第五班

中井 怜 松本 和樹
中村 翔也 池田 京子
夏目 梨帆 瀬戸 溪太
高田 拓朗 佐野 真吾
佐々木 梨乃 高橋 政則



これまでの自分の活動を振り返る



これからどんな活動をしていこうかな



れい
(中井 怜)
青森県 高1



かや公
(中村 翔也)
宮城県 高1



なっちゃん
(夏目 梨帆)
静岡県 中1



まつっ
(松本 和樹)
岡山県 高3



みゃ〜こ
(池田 京子)
愛媛県 高3



せとっち
(瀬戸 溪太)
福岡県 中2

つながりの可能性を実践の中で伝えていく

テーマ

子どもたちのネットワークを広げるための活動

発表の概要

「出会い系」をキーワードに、ネットワークを築くこと、広げることの大切さと、そのための身近な方法を考え、まとめて発表しました。

発表の内容

ネットワークとはなにか、どんなことができるのか、ネットワークを広げるためにどんな手段があるのかなどを話し合いました。地域や家族、友達などネットワークの種類を見直し、どんな活動があるのか（水フォーラム、文化祭など）、どんな手段があるのか（メール、新聞、掲示板、CMなど）、どんなものが得られるのか（地域への関心の広がり、伝統文化を知ることなど）を見直しました。

新しいネットワークをひろげる一手段としてメールを取り上げ、その実際のやりとりを、自己紹介→自分たちの活動を見に来てもらうために誘う→見に来た感想→見に来てくれたお礼という形で、模造紙に書いて発表。絵文字を駆使したリアルな表現で、見る人たちに親近感を感じさせ、笑いを誘いました。このような身近な働きかけの繰り返しで世界へつながっていくことをアピールしました。

まとめ

「ネットワークとは、だれでも簡単にでき、だれにでも知ってもらえる世界とのつながりであること。そして、ネットワークを通じて得た、水やいろいろな知識、世界中の子供たちとの出会いを大切にしていきたい」と中の子どもたちとの出会いを大切にしていきたいという言葉でまとめました。学校以外にも友達ができるすばらしさ、同じことに関心をもつ仲間が増える喜び、それによって行政などの支援を受けられる可能性などを考え、まとめとして伝えました。

ファシリテーターの感想



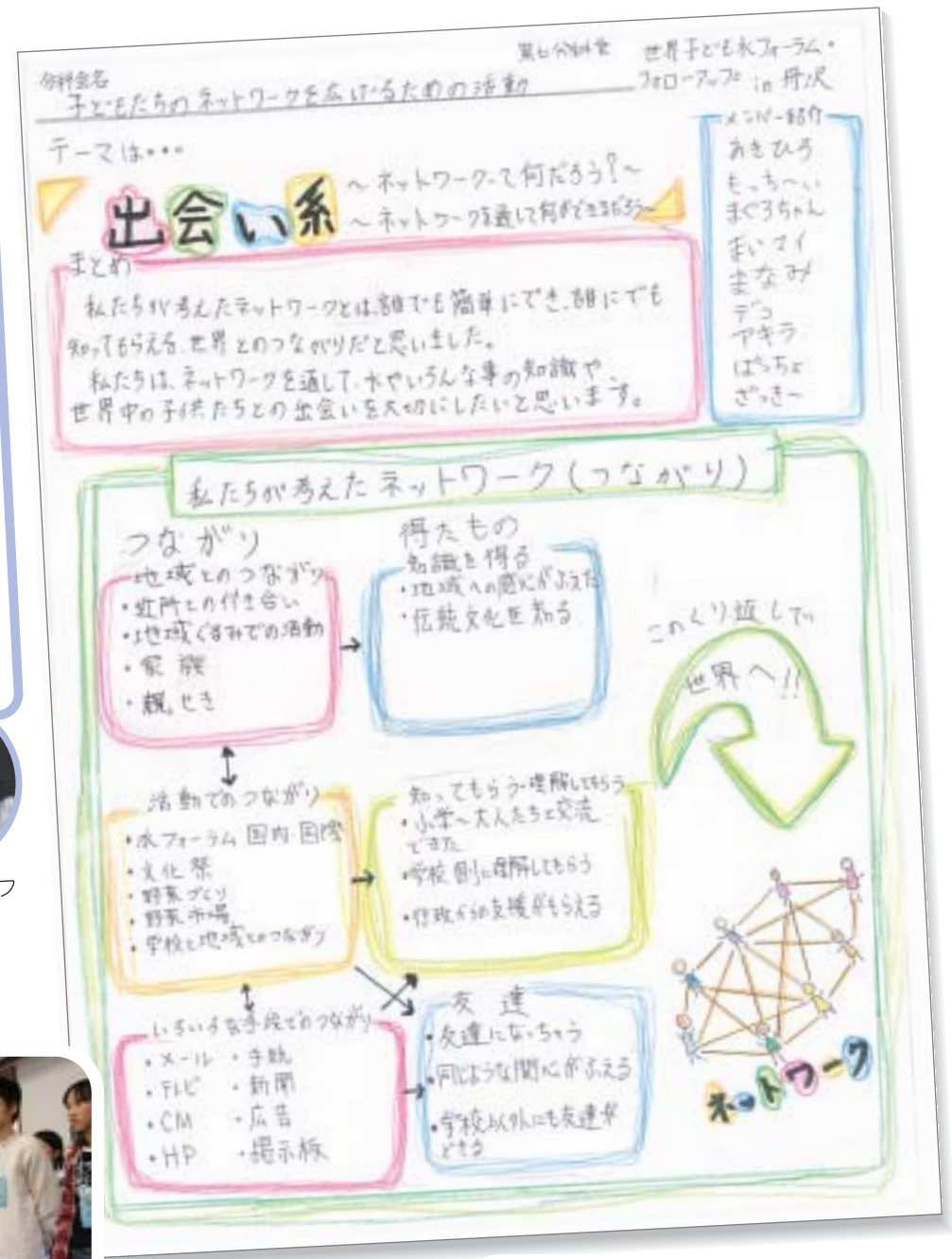
ファシリテーター
西林 ゆうか

私はみなさんと同じ参加者として参加を続けてきました。そして年齢を重ね、ファシリテーターになりました。これまで、自分たちがどんな活動をしているかを確認することが中心でしたが、今回は、未来に何ができるかということ話し合えました。少し目線が上がったように感じました。方向性が見えてきたのだと思います。時代は進んでいきます。今はもう、みなさんにとって携帯電話はとても大事なツール。そうやって、これからどんどん増えるであろう新しいツールをいい形で活用して、どんどんネットワークを広げていってください。

アドバイザー
神奈川県 県土整備部
河川課 技幹
山中 光彦



運営スタッフ
福岡 康司



楽しい雰囲気での全体発表



ファシリテーターの助言を受けながら

ネットワークについて考えよう



まぐろちゃん
(市川 美智華)
静岡県
高2



まなみ
(宮崎 愛美)
愛媛県
高3



あきひろ
(三和 優大)
青森県
高1



もっちー
(鈕持 飛翔)
神奈川県
高2



アキラ
(中尾 浩子)
福岡県
高3



まいマイ
(古藤田 舞乃)
静岡県
中1



デコ
(名嶋 優)
福岡県
中2

全体発表会

最終日の朝食後、丹沢湖
ビジターセンターへ会場
を移して全体発表が行わ
れました。分科会ごとにテーマに沿っ
て話あった内容を1枚の用紙にまとめるとともに、自分た
ちの言葉で発表を行いました。どの発表も工夫がなされ
「水への熱い思い」が込められており、会場全体を引き付
けていました。仲間たちの力強い言葉に参加者全員がこ
れからの活動への目標と決意を心に刻んだことでしょう。



手前より 藤吉 洋一郎実行委員長
宮尾 博一実行委員 今井 雄二実行委員



全体発表の様子（第1分科会）



盛んな質疑が行われた



真剣なまなざしの参加者たち



会場からの質問の様子



閉会式での記念撮影

全体講評

仲間がいること、明るい未来を信じて

実行委員長・藤吉 洋一郎

あっという間に終了の時間が。
ともに過ごした時間は短くても、同じ想いがあるからしっかりと心が通った仲間たち。
これからも続いていくそれぞれの活動に向けて、決意を新たにしました。
いつかまたきっと会える。水への熱い想いを持ち続けていれば。

フォローアップも回を重ね、ずいぶん充実してきたように
感じます。それにともなって、私たち大人に求められる
こと、宿題がたくさんあったことを重く受け止めています。
地球は水の惑星といわれます。奇跡的に水が蓄えられ
ていたこと。その水が空と地上をグルグルと循環する間に、
すべての生物に恵みを与えること。人間もその中のごく
一部であり、人間の体の約70%を水が占めている。そのよ
うなことを考えれば、水がどれだけ大切かということはわ
かるはずです。だからこそ、みなさんはそれぞれ水環境に
関する活動をしているのだと思いますが、その活動の中で、
理解のない周囲の大人たちが活動の壁になることがある
のではないのでしょうか。

戦後の日本は、経済成長のために大切なものを犠牲に
してきてしまった歴史があります。その中のひとつが、川
で遊ぶことの楽しさを親から子へ伝えるということです。
今、失われたものを取り戻すために、水フォーラムへの

参加や、みなさんのそれぞれの活動があります。世界子
ども水フォーラム実行委員会の仕事は、みなさんの地域
での活動が、少しでもしやすくなるような環境づくりでは
ないかと思います。そして、世代から世代へと、安全で楽
しい水との親しみ方が伝えられていく、そんな仕組みが
復活することを信じて活動を続けましょう。みなさんは、
トッランナーとして、メッセージを伝えていってください。
大変なこともあると思います。そんな時は、全
国にみなさんを
支える先輩がい
ること、仲間がい
ることを力とし
て頑張ってくだ
さい。



藤吉 洋一郎実行委員長による全体講評

閉会挨拶

いっしょに活動していきましょう

実行委員・久保田 勝

あっという間の3日間。みなさ
んのすばらしい発想、独創的なプ
レゼンテーションに驚かされました。子ども水宣言も、
ひとつひとつわかりやすい文章、よく練られた言葉で、
私たちにはできないすばらしい感性だと思いました。
その中に「いっしょに行動しましょう」という言葉が
ありました。ぜひいっしょに活動を続けていきましょう。
まずは参加しやすい環境づくりを、総力をあけて整

えていきたいです。
来年もまた、ぜひみ
なさんにお会いした
いです。また今回のフォ
ローアップを支えてく
れたすべての方々にお
礼を申し上げます。



久保田 勝実行委員による閉会挨拶

閉会宣言

世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢

日本子ども水宣言

平成18年11月25日

私たちは、それぞれの地域において、水環境を守る活動を身近なことから取り組んでいます。この宣言文は、このような活動を行っている私たちが世界子ども水フォーラム・フォローアップに参加して、未来の水を守るために必要である私たち自身の行動を宣言するとともに、大人たちへ要望（提案）します。

1. 私たちは子どもの視点から水に関する活動を発展させたいです。だから、子どもたちが個人や団体で水に関する活動の機会や場所を学校や地域社会で提供し支援してください。
2. それぞれの地域で、水や環境の問題に取り組む「子ども議会」を設置してください。私たちはその場に参加したいと考えています。そして、この議会での提案を受けとめて真剣に考慮してください。（「子ども議会」：未来のことを話しあう場）
3. 私たちが行っている、または行いたいローカルアクション（地域活動）について、地域を越えてアイデアを交換したり、お互いに助け合ったりできる子どもたちのつながりを支援してください。
4. 私たちの水に関する問題への取り組みを知ってもらうとともに一緒に参加してください。そして、私たちの声に耳を傾けてください。
5. 私たちの活動をテレビ、インターネット、ラジオなどのメディアを通じて、多くの人たちに紹介してください。
6. 風水害などの緊急時において身を守る方法や、安全な水や衛生環境を確保するために私たちにもできる方法を教えてください。
7. 私たちは水環境を守る活動などを行っています。社会全体でも水環境の汚染の原因となる不法投棄などのマナー違反をなくすことに協力してください。
8. 世界の水問題の現状を理解し、これからも安全な水と衛生環境の確保という人間の権利を守り続けましょう。
9. 水は、すべての生き物が使うことができる資源だと約束してください。
10. 私たちは今の心を持ち続けて、これからも水と遊び、水に学び、水にふれあう活動を続け、次の世代へつないでいきます。

私たち、子どもは行動しています。
あなたたちは準備ができていますか？



（子ども宣言文作成委員）
第1分科会 目黒 謙一
第2分科会 小林 孝太郎
第3分科会 野池 芽衣
第4分科会 成島 みゆき
第4分科会 村中 志帆
第5分科会 松本 和樹
第6分科会 釘持 飛翔

参加者の感想

今回初めての世界子ども水フォーラム・フォローアップ参加だったが、内容の濃い大会に参加させていただき、今までとは違った水に対する考えを持つことができました。ありがとうございました。

色々なイベントに参加するのは大切に楽しい事だとは思いますが、そればかりに力を入れすぎず、まずは自分の地元での活動を大切にしていきたいと思います。

今年みたいに、木・金・土で開催する形が日曜日にゆっくりできてよかった。

各分科会の交流する時間を増やしてほしいと思います。

今後も世界子ども水フォーラム・フォローアップに関わっていきたい。

東京大会で感じたような「無駄な緊張感」もなく、話し合いに適した環境が整っていた。今回は不満や未練もなく、得るものも多かったのも、このようなスタイルを続けていけば自然と輪も広がっていくのではないかと考えている。三日間という短い期間では出来ることも少ないが、逆に“三日間でここまでできた！”という良いイメージが定着するようなフォーラムだった。ただ、宣言文委員で班との話し合いの時間が大幅に減ってしまったことだけ少し残念です。

参加者同志の連携をもっととりたいたので、個人的なメールだけでなく、ネットでの話し合いの場（チャット）を設けるなどしてもらえたら嬉しいです。フォローアップ大会に参加する時点で、仲良くなってお互いの考えがある程度分かっていると話し合いがよりスムーズに進むと思います。

Q 世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢に参加して、何が得られたと感じていますか？（複数回答）



対象:37名（世界子ども水フォーラム・フォローアップin丹沢に参加した中高生）
回答者数:30人 回答率:81.1%＝30人（回答者）／37人（対象者）
男女構成:男11人（36.7%）、女19人（63.3%）

実行委員・事務局スタッフ

役割	名前	所属
実行委員長	藤吉 洋一郎	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会 代表理事
実行委員	内山 恵子	（社）ガールスカウト日本連盟 トレーナー
実行委員	瀬戸 孝夫	山北町長
実行委員	江原 正明	神奈川県 教育局 教育政策課長
実行委員	今井 雄二	神奈川県 県土整備部 参事
実行委員	久保田 勝	国土交通省 河川局 河川環境課長
実行委員	河崎 和明	国土交通省 関東地方整備局 河川部長
実行委員	宮尾 博一	（財）河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター長
アドバイザー	徳道 修二	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課 課長補佐
アドバイザー	牧野 国博	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課 主任
アドバイザー	齋田 紀行	国土交通省 京浜河川事務所 河川環境課長
アドバイザー	山中 光彦	神奈川県 県土整備部 河川課 技幹
アドバイザー	嶋村健一郎	神奈川県 県土整備部 河川課 技師
事務局	小俣 篤	国土交通省 河川局 河川環境課 河川環境保全調整官
事務局 （兼アドバイザー）	高橋 政則	国土交通省 河川局 河川環境課 課長補佐
事務局	海津 義和	国土交通省 河川局 河川環境課 河川環境教育係長
事務局	鎌田 照章	（財）河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	鈴木 茂樹	（財）河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	辻 正宏	（財）河川環境管理財団 研究員

役割	名前	所属
事務局	矢野 克己	（財）河川環境管理財団 研究員
事務局	花田須磨子	（財）河川環境管理財団
事務局	橋本 仁美	（財）河川環境管理財団
事務局	菅原 一成	（財）河川環境管理財団子どもの水辺サポートセンター
ファシリテーター	西林ゆうか	東北大学
ファシリテーター	三浦 初美	滋賀県青年国際交流機構
ファシリテーター	高田 拓朗	京都精華大学大学院
ファシリテーター	池田 幸子	京都教育大学
ファシリテーター	宮崎由美子	大阪府立大学大学院
ファシリテーター	小堀 進	NPO法人 直方川づくりの会
運営スタッフ長	中山 尚	前（財）河川環境管理財団 研究員
運営スタッフ	小野寺 希	酪農学園大学
運営スタッフ	佐藤 裕基	旭川医科大学
運営スタッフ	坂本 貴啓	筑波大学
運営スタッフ	横澤樹一郎	明治大学
運営スタッフ	佐野 真吾	東海大学
運営スタッフ	福岡 康司	京都大学
運営スタッフ	武田 行剛	大阪府立大学
運営スタッフ	佐々木梨乃	大阪樟蔭女子大学